太葉集

へ 5
1419

へ5 1419

玉葉集

一葉舎蔵板

帝国図書館

玉葉集序

杜甫自新秘
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の校正乃法則のうち本おもきもの校正やさきに八雲集
もとゝあるべしやさきに八雲集
るの類をさきにあるべし校正
乃ちとさきみるべきの類一切
俳諧をとりくさに五葉考之
とゝけてしるべし其本末の秘伝
校の類と殺生をとりて殺生をの
ぶ世をとりて世と云ふ類
れをとりゆかりくや

孝子の言葉有感

弘田[illegible]

一 蕉翁一巻氏俳諧やまとかたりしつゝ
文をうつす天和の比まて次韻みな
句をこゝろくくをけまれいまなくあり
ぬくゝもそすあくまちゝ煙林の
めれくるゆをもをまをを
こゝろひをもせこうの集をうしまたしの
ふくゝろうてをををををあり
屋をををむわくををををを

いの部

いのちなんとと雁面牛をあはれん　三丁ウ
いさらかきなんさくらつゝ　十六ウ
いろくの雲もひとつ村雨　廿丁オ
いさる仏もしさあるうん　三十四オ
ゆかりの月のやちの月　三十八ウ
衣紙にて掃あしたあるもの　四十四ウ
まつ秋をとうとけ雲はくしめぐ　五十九ウ
生れくるひとつ水こそ流れ　六十一ウ
いくさの夕暮川原あらはしうの　六十一オ
いまつまる秋のくるゝ夕いとの　全ウ
ほの部　七十五ウ
郭公はもしもきのふをそとくる　一丁ウ
ちとせを誘ふ雲ふれくるふ　九丁オ
残月ひとつ雲けやまるもすみ　全ウ
菊枕を人もあるもしのきの空　十五オ
菖蒲のすゝ薄つむをうろ　十八オ
ちつ秋やゆかまの月のひゝみを　十九オ
さくやくゝ夜九のもちり　三十三ウ
まりを神をあるやとうまれ　四十三オ
蜂ちりつゝ初秋はう鶏　四十五オ
ちつ月やまゝ雲をあはれ　五十一オ
八九月まくるもゝ　五十八オ
ちをくるとけ西のあるゝ　六十七オ
牡丹葉をゆくゝ山の野の刈ゝ　五丁オ
星はのゆかををゝくやちくゝ　十三ウ
月ゝまくををゝ　十七オ
星ゝ雪降ゝ西ゝ　三十オ
との部
修験の石をゝくるゝ西ゝ　十丁オ
とゝゝ立やゆゝ　全
甘ゝ秋よりのをゝめ　全ウ
魔ををゝかゝゝ　十四オ
伊勢をゝ我元明の月新　十三オ

[illegible]　十一オ
[illegible]　四十ウ
[illegible]　四十オ
[illegible]　三十ウ
[illegible]　三十オ
[illegible]　十七オ
[illegible]　十六ウ
[illegible]　十五オ
[illegible]　十四ウ
[illegible]　十三オ
[illegible]　十二ウ
[illegible]　十一オ
[illegible]　十ウ
[illegible]　九オ
[illegible]　八ウ
[illegible]　七オ
[illegible]　六ウ
[illegible]　五オ
[illegible]　四ウ
[illegible]　三オ
[illegible]　二ウ
[illegible]　一

わかすてひろけるみそれぶ　十五ウ
けの部
ゆきそうしゐも年とれそれしれ　五十二ウ
ふの部
風流のそめやおくの四ぞうと　廿五オ
文月やこゝろも米は秋ちかし　廿九ウ
風流のまことを知るや月と星　五十ウ
旅寝せば座あたゝかを海　六十オ
この部
はつかさ木雀もそゝん笠しゝん　四十オ
雨のゝ山はさかりはよ物の果　廿三ウ
あえうやくるり雲と雲うつるあるぶ　仝
おのれをうけもなりたんふるゝ　三十六ウ
おけとゝけけも軽小さゝ　三十七オ
はは里をふを四面やみこもり　四十七ウ
本はたゝけもなりんもゝそゝぶ　四十八ウ
本ひしゝめるゝ秋ゝきの湯れ　五十五オ
小俳諧ゆてかちんとゝのれ　五十六ウ
五人技おあてもゝゝ柳ぶ　五十七ウ
ちのゝそやゆゆ人なゝゝゝ秋のれ　七十四ウ
ほの部
ほのさゝて心かゝゝんゝゝゝれ　十一オ
あの部
蕎麦ときゝんゝゝれゝゝ　十六オ
栗拾ふあゝゝゝれゝゝ　十九ウ
もゝもゝやきをゝをゝをゝい風み部　廿八オ
あつゝゝゝ山浦かけてゝゝすゝみ　廿九オ
あれむさんや古曽のゝ　三十一オ
虎やゝ雲をゝゝゝゝゝ　三十四ウ
原行梅のゝゝゝゝゝ　三十九ウ
枝ゝて千ふりゝゝ白家ゝれ　仝ウ
知らや秋ゝゝゝゝ　五十オ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　五十一ウ
あゝゝあやゝ森をふ屋の月雲姿　六十四ウ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　七十オ
あまゝくゝゝ赤を海ゆゝ雲ゝ　七十一オ
ゝの秋をゝゝゝゝゝゝゝ　七十四ウ
さの部
さみゝれをあつめてはしゐ川　廿一ウ
柳葉ゝゝゝゝゝゝゝゝ　三十一オ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　四十二ウ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　七十二オ
きの部
秋の木ゝしの月八作ゝゝゝゝ　一丁オ
あゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　十二ウ
ゆの部
雲の秋を竹ゝゝゝゝゝゝゝ　廿二オ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　仝ウ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　卅二ウ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　卅三オ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　卅八オ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　卅八ウ
めの部
弥ゝゝゝ芋葉のゝゝゝゝゝ　卅ウ
めつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　廿八ウ
名月やゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　五十二オ
みの部
はゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　卅二オ
秋あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　四十五ウ
小ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　四十九ウ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　五十五ウ
しの部
雲月やゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　三十オ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　十五ウ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　十六オ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　廿ウ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　三十オ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　三十五オ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　四十ウ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　五十九オ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　六十四オ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　六十五オ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　七十五オ
ひの部

一葉舎仙鳧　撰
蘭亜屋青音　校

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

田家眺望　村雨

雲月や鞍のつくづくあらはれて　杜国

雲月や鞍のつくづくあらはれて　重五

雲月や鞍のつくづくあらはれて　杜国

雲月や鞍のつくづくあらはれて　明星

雲月や鞍のつくづくあらはれて　理水

水手と舟の間に霊とのやうな
山茶花とかいふ花ばかりなり　水笠

いくつも見れど雑西行の
桂やうあり　桂はうらの松　羽笠
本紙えうたるを　雑西行の
桂笠を　雑を　雑を　雑

[illegible]

三股の舟　源川　社　歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いけらを甲斐の我らもこんよ
注の土記別数と呼みおうん
そうつうし社記をまう州の戸
咲いそう女ひそ
二 格そ小白とし
赤ふ者ふ
殿さの
元を眉と
け一
葉ふ社風
かれ
あ
石の戸
られ
永
近江の
と
沈
水
ト
鯨
角
重
下
化
弦
白
星
高
抵
揚
水
ト
鯨
角
重
下
化
弦
白

和漢

前茶　晩避烟　未堂
合秋　醒馬上　〃
月代見　金氣　〃
露繁　添玉　〃
隆地　〃
惟　〃
掣箒　驅倫鼠　〃
古色　〃
〃　〃
舟鋪　風早浦　〃
鐘　絶日高川　〃
〃　〃
託　〃
〃　社本　〃
〃　使五車填　〃
〃　月丈山　〃
〃　銀　〃
〃　〃
〃　〃
〃

[illegible]

十一月十二日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

叩頭　岡水

相撲　東藤　二山　桂樹　能登　行司　勝

水　勝　負　桑　山　横　横　横　山　桑　負　桑　山　横　横　横　山　桑　負　桑　山　横　横　横　山　桑　負

相撲　叩頭　相撲　叩頭

二月　出十二日　二月

二月

芦文

用石
東巡
為
人
文
字
盛
玉
精
餅
蜑
百
呂
宗
巡
文
蓋
文
盛
人
自
人
為
玉
百
呂
宗
巡
文
蓋
文
盛
人
為
玉
百
呂
宗
巡
文
蓋
文
盛
人
為
玉
百
呂
宗
巡
文
蓋
文
盛

長江　芳芳　一井　越人　胡及　荒洋　爲　江　芳　井　人　及　隆　爲　井芳　江　芳及　隆　井　人　爲　虹　人　及　芳　爲　隆　及　人　江　爲　如

相象　爲　東茂　工山　用水　龍芳　端　象　爲　山　茂　爲　山　爲　端　象　端　爲　山　爲　象　山　端　爲　山　爲　象　爲　山　茂　爲　端　爲　山　爲　象

杉風　越人　芭蕉　友五　芳菊　依々　泥芹　人　風　翠　五　菊

越人

芭蕉　菊　友五　芳菊　依々　泥芹　人　風　翠　五　菊

佐川の夜　越人

芭蕉　菊　人　芭蕉　菊　人　芭蕉　菊　人　

田うゑ　そめて　曙きこゆ　菊

大酒慶園医師若

千かさね　ちとせ　松　枝の長　菊

子ども　あそび　時　ゆく　姫　姫

葉　ほりみの　紙　ちぎり　ゆく　夕菊

風　ふき　ちり　ぬ　白　に　して　花　菊

内洲　ゆく　ほ　なり　ぬ　ぬ　月　石　五

油　茶　を　ひ　ひ　る　ま　ま　赤　蜜

包　め　ら　や　う　て　ま　ま　酒　酒

き　を　か　も　ぬ　家　を　る　と　も　良

君　を　ま　て　ま　ま　る　て　ま　ま　五

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　翠

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　酒

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　菊

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　良

地　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　菊

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　菊

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　良

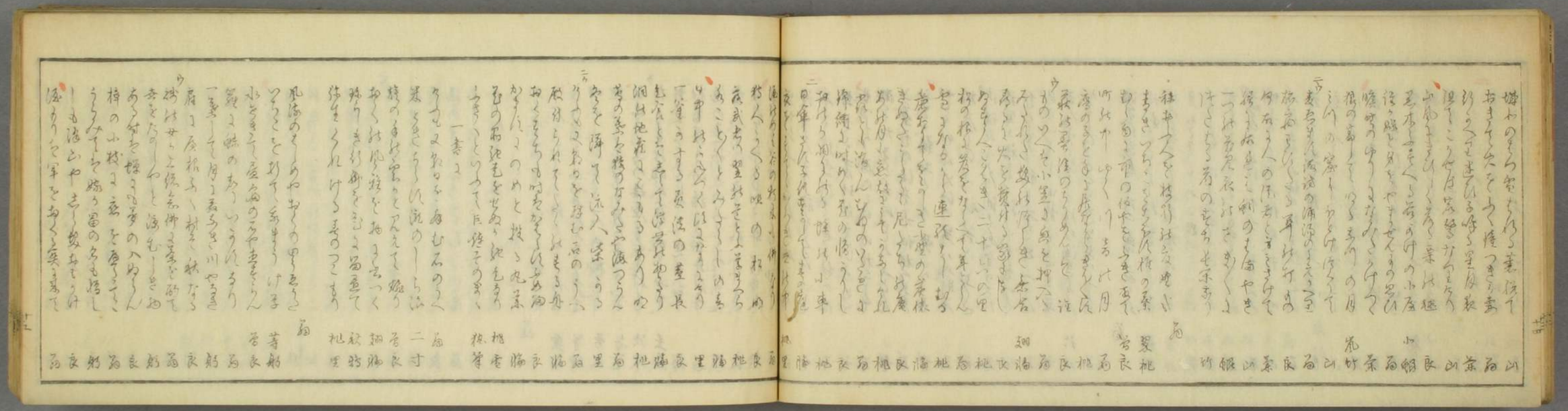
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　酒

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　翠

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　五

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　良

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　菊



[illegible]

[illegible]

[illegible]

月産 ヒカメ

[illegible]

枝 生 爲 良 枝 良 爲 生 枝 良 生 爲 枝 良 枝 生 爲 良 枝 生 爲 枝 良 生 爲 枝 良 枝 生 爲 枝 良 生 爲 枝 良 枝 生 爲 枝 良 生 爲 枝

夕 枕草

不加

荊口 菊

白 折

庄柳

殘香

鉢盛

怒風

加

菊

紅

柳

菊

香

紫

加

紅

越人

紅

菊

柳

路通

文鳥

越人

紅

菊

柳

路通

文鳥

越人

紅

菊

柳

路通

文鳥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

丈草

○ 小仙ちみ、ちりて、ちりてめ、ひらく、菜旦 踏通
寒ゝ、ちりて、めひらく、ちりて、ちりて、ちりて

探志

支考

芳人

支考

扇車

溪水

桃隧

桃先

桃後

桃軽

扇

支考

桃先

桃後

扇

支考

扇

支考

桃隧

扇車

桃軽

扇

桃先

桃後

扇

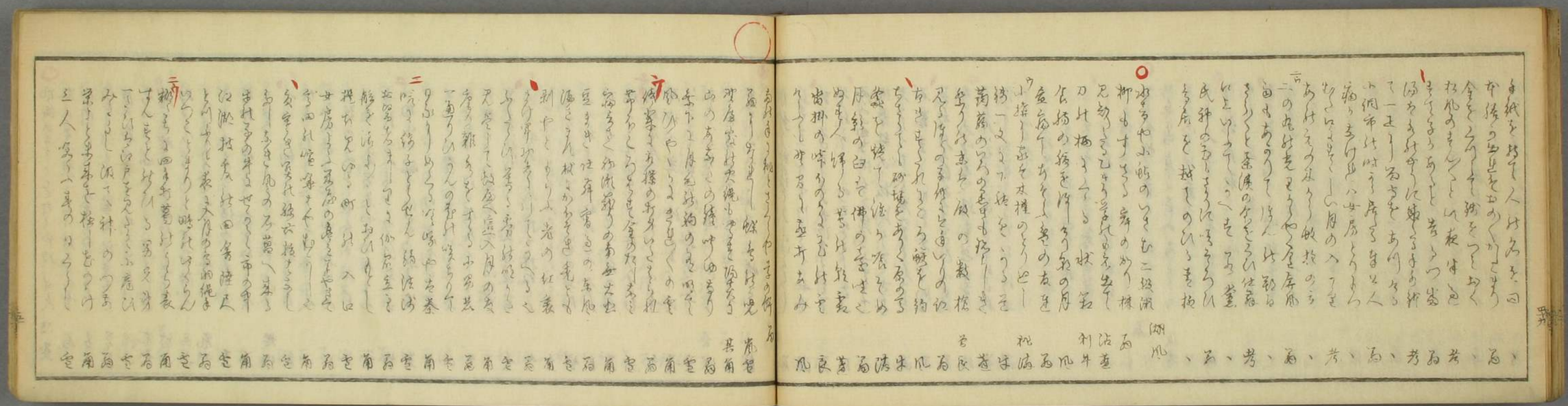
支考

扇

支考

扇

支考



○ 恒子ちゃのはしたもさ一路の却史部
和一外を徒の　　笑　　百
華氏種と蜀酒代鏡を聞きて　　岱水
最市二人のこと　　中山母　　部
木刀代考きくく　　孫公ぬき　　百
二階もしくの　　表板　　水
宝さきに高代は　　代三　　部
石丁ちれハ母　　百
を細工と新著　　水
体うくてもの　　部
肌をき深の　　百
秋入時の節　　水
沼濱と海つき　　部
を使うちし　　百
拾ちの移利　　水
土しく窓のく　　部
あくれん一色　　百
小姓のは代　　水
二　行格のはよう　　部
ちは養かく　　百
り者に洗濯　　水
ちしし社母の　　部
拙えうち　　百
ちのあてか　　水
蒲鉾川の　　部
石里そうく　　百
拙さしし土佐材　　水
ちうもちんぬ　　部
しと作を　　百
考ちとて　　水
三　橋沢　　部
濱よ考ち　　百
ハ南雲ち　　水
一筋三日の　　部
考て芝生ち　　百
百渡やうひ　　水
尚代のひさ　　部

○ 名月や海ちの　　岱水
空うり桃のう　　百
材を徒て庭さ　　部
ちうケちれの　　百
拙ちうぬ鼻紙　　水
ぬきさ切のち　　部
猫人のそ切　　百
まきく宅ち　　水
入口社猛あち　　部
きうれ者の　　百
母ちう猫くハ　　水
拙ちまて　　部
絞ち月代ぬ　　百
ぬ一のちち　　水
原制を考ち　　部
殿のしれ　　百
を浮て木ち　　水
わちうも　　部

○ 初茸やまさり殺　　百
まさちて　　水
弾ちう所村　　部
さしてむ月　　百
猪ちて鍋ち　　水
拵ててら芋　　部
ちしちを主　　百
浜河の天濱　　水
布者紙茶を　　部
やさしきを　　百
よりれの中　　水
和ちちう白の　　部
月ちちと　　百
子猫の俵　　水
胃ちちと起　　部
箱りちち　　百
おちれちん　　水
浮ちき井濱　　部

○ 名月や海ちの　　岱水
空うり桃のう　　百
材を徒て庭さ　　部
ちうケちれの　　百
拙ちうぬ鼻紙　　水
ぬきさ切のち　　部
猫人のそ切　　百
まきく宅ち　　水
入口社猛あち　　部
きうれ者の　　百
母ちう猫くハ　　水
拙ちまて　　部
絞ち月代ぬ　　百
ぬ一のちち　　水
原制を考ち　　部
殿のしれ　　百
を浮て木ち　　水
わちうも　　部

○ 初茸やまさり殺　　百
まさちて　　水
弾ちう所村　　部
さしてむ月　　百
猪ちて鍋ち　　水
拵ててら芋　　部
ちしちを主　　百
浜河の天濱　　水
布者紙茶を　　部
やさしきを　　百
よりれの中　　水
和ちちう白の　　部
月ちちと　　百
子猫の俵　　水
胃ちちと起　　部
箱りちち　　百
おちれちん　　水
浮ちき井濱　　部

野產
史祥
景地
素牛
之通
車商
志
力
秀
高土
稚
高
水
菊
菜
桃米
山
高
水
高
六
菜
水
高
六
菜
山
高
六
菜
水
高
六
菜
山
高
六
菜
水
高
六
菜
山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ 伊勢をつそくやうしゐ[illegible]
いはけ[illegible]ら 拾玉集
牧原茶臼の遠号はそれ[illegible]
為生ら[illegible]海[illegible]
[illegible]き 粉の移原
[illegible]ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

○ 平人按脈法第十六

脈の大小遲速浮沈滑澁緊緩虛實長短洪細弦革牢濡弱芤動散代結促伏の脈法は、脈經に詳しく論じたれば、今ここに重ねて論ずるに及ばず。

脈の大小は、大は病の進むなり。小は病の退くなり。

脈の遲速は、遲は寒なり。速は熱なり。

脈の浮沈は、浮は表なり。沈は裏なり。

脈の滑澁は、滑は痰なり。澁は血少なし。

脈の緊緩は、緊は寒なり。緩は風なり。

脈の虛實は、虛は氣血の不足なり。實は邪氣の有餘なり。

脈の長短は、長は氣の有餘なり。短は氣の不足なり。

脈の洪細は、洪は熱なり。細は氣血の不足なり。

脈の弦革は、弦は痛なり。革は虛なり。

脈の牢濡は、牢は實なり。濡は虛なり。

脈の弱は、氣血の不足なり。

脈の芤は、血の不足なり。

脈の動は、痛なり。

脈の散は、氣血の不足なり。

脈の代は、氣血の不足なり。

脈の結は、氣血の不足なり。

脈の促は、熱なり。

脈の伏は、痛なり。

○ 平人脈數法第十七

脈の數は、熱なり。

脈の數は、氣血の不足なり。

脈の數は、痛なり。

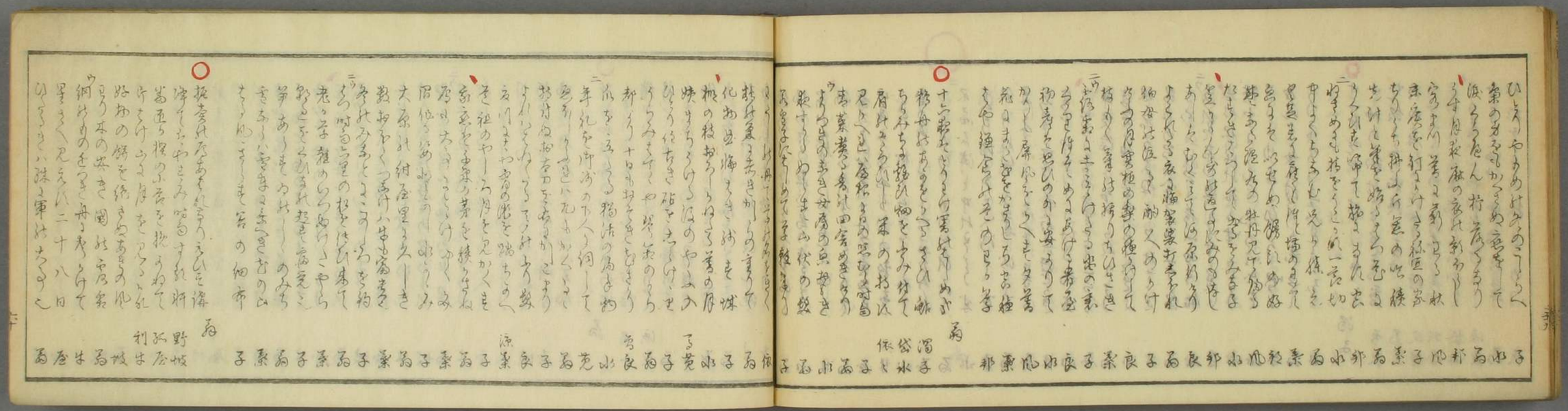
脈の數は、痰なり。

脈の數は、血少なし。

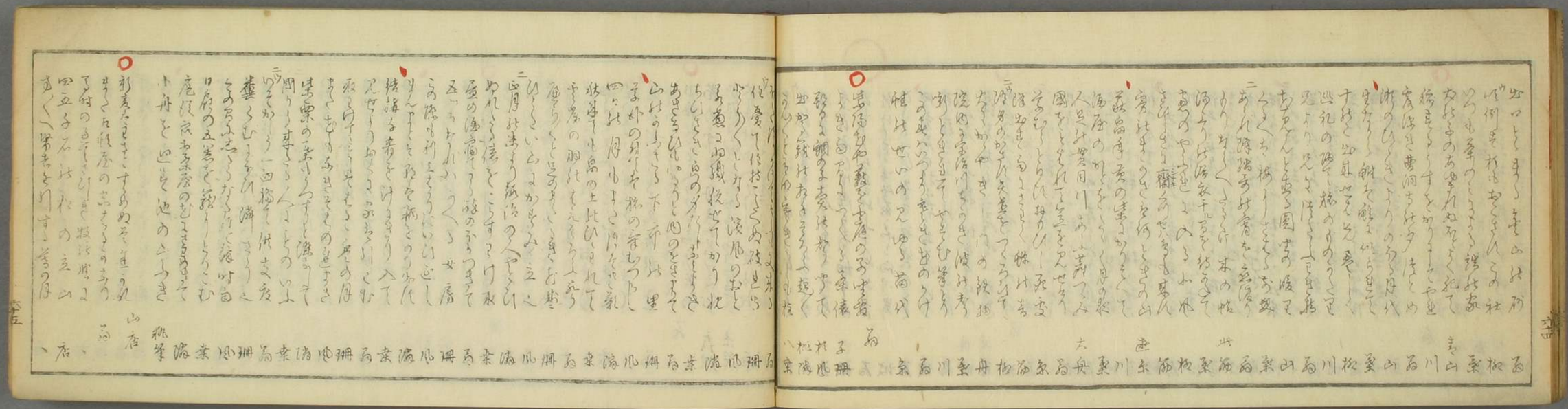
脈の數は、氣血の不足なり。

脈の數は、氣血の不足なり。

脈の數は、氣血の不足なり



法華経雑談もすめ
昨しつむが拙作をはじめて
房海もちゝ酒屋 好古屋
三重地千葉きさむうもの出
るる出のわれ四代、意もく
伯男れ七ちくを知とつまて
姫うつ あ紙 五十石より
佛魚社藤鬼もまを生る月毛
砂うあつみけ 雪の工
二 新魚社畫も者つく 雪の工
ひとり出しる 無 屋
いらの第社あを あ雪うる 坂
平地のちけうまき義 姫
千 おを高の 屋
姫出見鳴の 屋
筆用 屋
又 屋
屋 屋
屋 屋
屋



○小説おくと人のいとなむ物語を丹さうし
苗めしかを丹さうし
[illegible]

○牛馬を杖のさきにもちゆる構樫は長木
[illegible]
一枝の中ほどに[illegible]
[illegible]

僧上いつて妻しうめる
菜ハ紙ヲ絵の十徳つまんうと
まふぬまつまと紙ハ事さう
時屋を絵ちうしうのうち
絵うもこけの咲るかつく
白まちく拵れたうのそうと
ある常なつて常はかつ屋掛
うの浜代仏ねもれ常はかつまりて
鶯と男はあるあるう拔扨
おあの里下ていてハ涙々
塗しく絵より物はは出一へ
在はあのもをく歩ちうし
はりれ一はあ絵はくいを

○板屋旅かく者をすし初茗荷
ろ引拵くる若中の稗 洒堂
材屋里ろう男ハ出あるもて 玄東
場ろけるく庵をお石垣 支考
月絵ハ川ちくむ舟の酒 丈艸
小いるしらはて砂ハ絵つく 惟然
ウ上ハ出ハそこらをさて茗荷ハ
多捕をつるお通りは泊 芭蕉
廬ハも食ていつのうくして 木節
大二はは邪ケ泊をうる 考
竹植のるる汲掛る庵裏の先 猿蓑
俳りをまちて酢泊利をやち 孝
越くやめるしく鮒と南方ハ 木節
竹鮒を焼と鮒と南方ハ 芭蕉
ろろうてるまく樫の木は森 然
月をしらはさるつを炉りつ 蕉
茗荷ろを覗の上る拵板 芭蕉
二陽まを拵て茗荷ハ蕉の供 蕉
新茗のかきのほのうして来 蕉
行はの力をうをを刈と拵ハて 芭蕉
近はをるるのむ時るは ろ拵 木節
ろはをの二ろん庵を落ろう 考

御前はおんと沈はは田涼 芭蕉
はのくるの湖を氣の茶ハ沈却と 猿
ようろはは時故あるしはなり 木節
森祇の絵て拵よむ茗ハ切 考
るるくるは挽て切ろ生の蕉 蕉
川はろ海て茗ハ蕉ハ蕉 蕉
茗ろはせくる四上は庵 芭蕉
二月もるやは茗ハ蕉ろ 芭蕉
種つけるる来ろはは名代 木節
茗荷のは食〳〵絵ま姫却魚 猿
はくんをうけて茗ハ蕉 孝
白鶴をゆれもろ絵ハ蕉 考
役ち拵拵の衣ろきの蕉 木節

○夕島や蕎に物をろ夜半蕉 蕉
西りを上ハく義の小苅 蕉
ちくるを河涼る河魚はつ是三て 蕉 晴雄
るはまもうるこれきくこ 蕉 晴雄
一葉の絵て海ろくるの月 蕉
稗くを種蕎ろ庵の蕉 蕉
ウ拔蕎も小信稗ハ人 蕉
ろくゆるまの人 蕉
孝屋の涼ろきろ絵屋の庵く 蕉
旅の絵まる屋驚ろ 蕉
るのはつはるまま 蕉
ろはるるつて夜ろ 蕉
めきくと川より 蕉
茗の味をきこの 蕉
月絵を夜海の涼 蕉
蕉はく蕉ろ物涼の蕉 蕉
蕉はを茗ろ絵蕉 蕉
土はろの〳〵を芋ろの蕉 蕉
涼ろを四蕉絵ろはは西ろ 蕉
伊勢はは蕉〳〵料理先ろう 蕉
相の蕉をすそとろのはろ 蕉
屋の絵ろぬを蕉て行くる 蕉
絵くろを蕉絵て蕉る蕉の月 蕉

○ 拔萃わ一ら見本等の色ちり付
紙めり和ちく紙てとさする元代
宮ち母伝氏のそを里のうし記支考
きとー たとけて里のうし仕商飾方文 雅飾
四五人てあるのを仕商飾方文 雅飾
いきうし 汚な鶴を置しゆ 地蒸
を鶴の書付氏ちゆ心ちつりと 性紙
厚風ちんて掛長ちり 卓袋
きうくを上別茶の面きさきき 代
見ちゆのうたをちうけ 考
麗ゆしちんの上紙茶味ちるく 芝
作ちけちうは八当けあめ 飾
ゆえれき作も見えれ赤屋 製
三度ちて嫁えなのあき 扇
錦付志ちきたうちせり 袋
きちみもそ中ゆ仲あるく 萩子
物書付姫ち赤竹ゆ行ゆ 紙
みちまたうとしぬ月の紙さ 代
二ちちうとちて ちちの付きれて 紙
摩ち茶くも豆数や 考
きゆのちひさ見ちう角をの 飾
麗風呂紙師のちめか減ちき 子
二ち本竹紙ちれいん ちんりと 考

○ 枕草子の物語 第八段
破れ紙さ 枕ちちる 扇
あれ月ちり行しの紙 芝
味噌茶の富ちくる考つ 代
本紙を盛ちつきめ 袋
きゆちの鶴を考ちの仕篇 紙
芭ちきちけうるんゆちを 子
ら紙ち鶴のちゆを紙して 扇
紙ちに紙ちの叶付ちて 袋
ゆちたちちちち禁紙ぬかちの下 芝
せきの入てちち屋ふきけち 考
ちちきち可咲ちのいちて咲 飾
ちちち紙ち菊ち屋の生くめ 代

○ あちくて書て海ゆく理ち
鶴紙かーちをあて面ゆ 装 雅
鶴身紙かちち側あけつ 扇
茶紙ちかつ五暖ちし 配力
かつちと楊を赤八雑め取 壁翼
きちうちりきちうち檜きちく 土芳
鶴金のちひさ紙おちう 卓袋
名ちと地下し ちてて 扇
焼食を刺ても中紙はく 飾
おりい居ち知めて 翼
ちちちち白の茶ちな芳
酒ち紙おりく月を食 紙
ちき鶴の山風の茶を 本白
角力ちちけ山伏相は一かちく 力
ちりちちち一杵の鶴の菓 飾
焼きちて茶ちち紙屋の孔 紙
土ちきさちう十茶の風千ち 芳
二碑制の川隣の石ちちくめて 扇
日南くちちちちちちちと 製
大ちち紙紙のきちの茶さあき 白
白ひの蝉紙ちちの茶ちる血の茶 力
一杵ち紙ちち十茶鶴海紙姫 飾

雪芝

○ 松茸の部

[illegible]

○ 鮭の部

[illegible]

○ 枕は敷を折つ重ねたるなり　羅

車屋　酒壺　鴨力　郡竹　性徒　支考　蘭

○ 春さめや別人ならぬ物の上　吐月

月ゐるむ茶麦はさぶ所の高うあるに泊る　泥足

支考　鴨力　郡竹

○ 蓮の葉四枚を敷て浮き川籠　蘭

車屋　酒壺　鴨力　郡竹　性徒　支考　蘭

○ 蓮の葉四枚を敷て浮き川籠　蘭

車屋　酒壺　鴨力　郡竹　性徒　支考　蘭

○ 地蔵の顔ゑがきさかはる蓮の葉　性徒

性徒　支考　蘭

○ 春さめや別人ならぬ物の上　吐月

月ゐるむ茶麦はさぶ所の高うあるに泊る　泥足

支考　鴨力　郡竹

○ 蓮の葉四枚を敷て浮き川籠　蘭

車屋　酒壺　鴨力　郡竹　性徒　支考　蘭

○ 地蔵の顔ゑがきさかはる蓮の葉　性徒

性徒　支考　蘭

○ 本を重ねて月見ゐる羅も法師　蘭

園女　郡竹　清川　支考　性徒

○ 春さめや別人ならぬ物の上　吐月

月ゐるむ茶麦はさぶ所の高うあるに泊る　泥足

支考　鴨力　郡竹

○ 蓮の葉四枚を敷て浮き川籠　蘭

車屋　酒壺　鴨力　郡竹　性徒　支考　蘭

○ 蓮の葉四枚を敷て浮き川籠　蘭

車屋　酒壺　鴨力　郡竹　性徒　支考　蘭

○ 地蔵の顔ゑがきさかはる蓮の葉　性徒

性徒　支考　蘭

附録

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桑葉
芳松
清麦
丹代
風吼
岡城
桃心
激月
茶碗
短長
松晩
花外
青柳
幽谷
赤眼
月大
五湖
水丈
梅園
長谷
岩年
月才
上往 黒威
柳枝
雛菜
文重
宝収
篠雄
上少 青手
杉老
詩歩
刈坡
地やう
梅の枝
一松
相一茶
而田
玉泊

蔵水
山資
五老
世湖
御れ
小
松
小
長
小
小
小

[illegible]

[illegible]

[illegible]

叩厚　大竜　北條　山方　山子　拙誠　徳之　和　老子　呉淵　号載　流之　大船　古山　栃美　尼外　方有　迦角　嘘舎　天と　古外　篠松　雅音　会　若少　五石　茅宇　寄心　毛雄　護民　国音　上手　ひろう　流谷　仮来　国能　祖之

氷室　山外　波瀾　雄　仲　仲　仲